



第1会場●4F 大研修室

■司 会/山下 伸明 鳥取県教育委員会事務局中部教育事務所社会教育係 社会教育主事
赤田 博夫 山口県生涯学習推進センター事業課 課長

1 「わくわくふるさと」体験活動と「ハートフル教室」 10:45～11:10

ー西米良生涯学習カレンダーの活動組織力ー

甲斐 法長・牧 幸洋（宮崎県西米良村） 西米良村教育委員会 主事

平成6年度以来の継続事業。生涯学習カレンダーを作成して全戸に配付。カレンダーには青少年の体験活動に関するコラムを掲載し、家庭内の意識的あるいは偶発的学習の触発を狙った。具体的な活動はカレンダーのコラムをもとに毎月小・中学生を対象とした「わくわくふるさと」を配付。実践の場として第3土曜日に「ハートフル教室」を開催。プログラムの指導には地元名人の腕を借りた。

2 地域集団の“協働”による学校週五日制対応プロジェクト 11:10～11:35

ー福岡市長尾公民館を拠点とした地域教育力の創造ー

濱崎 朝乃（福岡市） 福岡市長尾公民館 主事

地域ボランティアの協力を得て年間を通した「読み聞かせ」事業、佐賀県厳木町との交流による農業体験「どろんこわんぱくスクール」の田植えと稲刈り。団子作りやレクリエーション、パソコン教室、お天気教室、しめ縄つくりとどんど焼き等々、様々な活動を実施している。地域の協力が得られた時公民館の力は倍増する。

3 未来のふるさとを歩くーおのみち100km徒歩の旅 11:35～12:00

ー地域とボランティアが支える少年の挑戦ー

柿本 和彦（広島県尾道市） 社団法人尾道青年会議所 2003年度理事長
おのみち100km徒歩の旅実行委員会 実行委員長

尾道青年会議所の主催事業。青少年の健全育成はもとより、市民参加、コミュニティの活性化など複合的な目標を設定した。合併を想定した未来のふるさとを4泊5日で歩き通し、忍耐力、積極性、出会いのときめき、郷土の自然と歴史を体感・体得することが目的。事前準備はボランティアの学生の養成講座、保護者研修。歩き通した子ども達にとっては、困難への挑戦の精神、新しい友との出会い、周りへの感謝の心が収穫である。

4 総括討論 12:00～12:30

第2会場●4F 視聴覚室

Lifelong Learning

■司 会／齊藤 道夫 島根県津和野町役場総務企画課・野中里山倶楽部 代表
大脇のり枝 福岡県宇美町立桜原小学校 教諭

1 むかし体験「富岡往還」から演劇「島の礎」の上演へ 10:45～11:10

－鈴木精神を伝承するいやしの里づくり－

井立 伸一（熊本県本渡市） 本渡市立本町小学校 教頭

鈴木重成公没後350年を記念する小学校と校区住民が一体となった事業として構想。鈴木精神の継承を柱に発足したまちづくり実行委員会との連携を強めた。天草のルーツを探る「豊田市立矢並小学校」との交流、昔の暮らしを体験する「富岡往還」を実施。町民の手作り演劇「島の礎」も上演。郷土を見つめ、小学生から高齢者まで、いやしの里づくりの実践の中で世代間交流を具体化した。

2 みんなで学校をつくろう 11:10～11:35

－学校・家庭・地域が一体となって育むタフな子ども－

牛嶋 理孝（長崎県岐宿町） 岐宿町立川原小学校 研究主任

「タフな子どもを育むための実践モデル事業」として標記の目標を掲げ、家庭、学校、地域が一体となって地域の特色を生かしたプログラムに取り組んでいる。家庭や地域の学校に対する関心・協力体制が強化され、「学校の敷居が低くなった」と評価を受けている。

3 自然・生活体験活動を推進する社会学連携・融合の具体的方策 11:35～12:00

－「やまびこの杜」セカンドスクール IN 英彦山－

井上 憲治・是石 博幸（福岡県） 福岡県立英彦山青年の家研修課 課長・社会教育主事

学校職員の勤務時間外は青年の家職員が子どもの生活指導を担当するという2機関共同／共催事業。青年の家の機能と立地をフルに活用して教科学習と「山伏タイム（クラフト、野外登山、野外調理、星座観察）」を組み合わせた。カリキュラムも指導者も学社連携による相乗共生。対象は福岡県内の小中学校から募集した。最短は1泊2日。最長は4泊5日。

4 総括討論 12:00～12:30



第3会場●2F 第4研修室

■司 会／石原 玉絵 福岡県教育庁福岡教育事務所生涯学習室 社会教育主事
森田 豊 長崎県高島町教育委員会 次長補佐

1 与論島美術館誕生物語

10:45～11:10

－高校生が運営するセミナーハウス&エコミュージアム－

赤崎隆三郎（鹿児島県与論町） 鹿児島県立与論高等学校 美術部顧問

平成10年6月学校の文化祭で県境を越え沖縄県北部地区の高校生との作品交流をきっかけに「高校生美術展」を開催。以後、「全国高校生美術展」、「世界高校生美術展」に発展。平成13年島の総合美術展「与論島美術展」を創設。平成15年、高校生の運営による「与論島美術館」を誕生させて交流の輪を広げている。

2 「私をスタディツアーに連れてって!!」

11:10～11:35

～知ることから始まる地域の国際協力～

大野 博之（佐賀市） NPO法人地球市民の会 事務局長

「会」の活動は実に幅が広い。インターネットを引くと活動分野の説明がある。事業プログラムは国際協力、国際交流、地域づくり、地球共感教育にまたがる。国際協力には奨学金があり、小規模水力発電計画まである。国際交流ではすでに多くの実績を上げた「小さな地球計画」がある。10年程前の交流会でも発表いただいた。その後の展開と方法論が注目される。

3 生涯学習「手作りコンサート」のまちづくり

11:35～12:00

－気高町“浜村ミュージックメイツ POCO A POCO”の10年－

坪井 和弘（鳥取県気高町） 浜村ミュージックメイツ POCO A POCO 代表

手作りコンサートから出発。平成8年生涯学習の音楽活動として「浜村ミュージックメイツ POCO A POCO」を結成。小学生から社会人まで老若男女の構成でメンバーは約50人。吹奏楽教室、手作りコンサート、貝がら節祭り、幼稚園の慰問など多方面の音楽活動に関わる。活動が認知・評価されて以来、メディア・全県を舞台に“波瀾万丈”の演奏を展開中。

4 総括討論

12:00～12:30

第4会場●2F 自由研修室

Lifelong Learning

■司 会／脇黒丸陽一 かごしま県民大学中央センター 社会教育主事
久保ひろみ 福岡県教育庁京築教育事務所生涯学習室 主任社会教育主事

1 地域の活性化を目指す自治公民館の村落史編纂活動 10:45～11:10

ーコミュニティ意識に支えられ、ふるさと史の掘り起こしにかけた5年の歳月ー

岡田 昌孫（鳥取県会見町） 前市山公民館・市山区史編纂委員会 事務局長

平成10年市山公民館運営委員会が区史の編纂を提案。区民から編集スタッフを募集。5年の歳月を費やして、聞き取り、聞き書き、古文書の収集／研究、執筆を実施。地区住民の全面的協力を得て、ふるさとの歴史を平易で、親しみやすい区史に編纂した。編集作業の協力の過程が自治意識を掘り起こし、区史の完成が地区の自信と誇りを生み出した。

2 市民による市民のための「くらしの法律セミナー」 11:10～11:35

ー自主企画、自主運営、自分達に役立つプログラムの創造ー

向上 正美（山口県宇部市） 山口県宇部市くらしの中の法学セミナー実行委員会事務局

公募学級の修了生が組織した実行委員会による自主企画の市民学習プログラム。くらしに関わる身近な問題について知識と考え方を学ぶ法学セミナー。弁護士、裁判官など講師陣には法律に関わる多彩な専門家を依頼し、近隣市町からの参加者も受け入れている。面白く、楽しく市民のニーズにあったプログラムの開発が鍵である。

3 西土佐穂（みのり）太鼓のまちづくり 11:35～12:00

ー和太鼓文化は人をつなぎ、村を変えるー

今城 久枝（高知県西土佐村） 西土佐穂太鼓 リーダー

平成12年村が和太鼓を購入し、地域起こし、人づくりが始まる。現在、西土佐みのり太鼓大人22名、保育所幼児と小学生からなる子どもみのり太鼓23名。和太鼓の魅力が人々を引き付け、練習への集中が人々を変え、交流を促進する。活動は近隣の市町村に及び、和太鼓文化が西土佐の郷土芸能として確立しつつある。

4 総括討論 12:00～12:30



第1会場●4F 大研修室

■司 会／平生 孝臣 熊本県教育長社会教育課 社会教育主事
大城 誠一 沖縄県西原町地域教育連絡協議会地域部会 地域部会長

1 地域の教育力を支える公民館の青少年プログラム 13:30～13:55

村田 郁子 (長崎市) 長崎市教育委員会生涯学習部生涯学習課 社会教育主事補

学校5日制は休日の過ごし方や学力低下の心配を惹起こした。市内18の公民館は、それぞれの公民館自主グループを活性化し、青少年プログラムの選択肢を拡大し、体験・発表の視点から内容・方法を工夫した。結果的に公民館が活性化し、地域の教育機能が充実。副次的にボランティア実践の舞台を創出し、世代間交流を巧まらずして実現することにつながった。

2 いきいき子育て “ウィークエンド寺子屋” 13:55～14:20

—家族が創る私塾の挑戦：読み・書き・計算からキャンプ資金稼ぎまで—

原 誠 (島根県益田市) ウィークエンド寺子屋

出発は7家族29名。体験の不足も、学校五日制も、子育ては不安が一杯。しかし、体験のステージづくりは大人の責任。子どものための私塾を作ろう。外の子を見よう。父親も参加しよう。自然を生かし、特技を生かし、知恵を寄せあえば様々な挑戦メニューの創造。子どもはたくましくなりました。役割と責任の分担を学びました。大人も自覚的、協力的、積極的、健康的になり、なにより仲良しになりました。

ティータイム 14:20～14:55

3 地域が創造する4小学校合同総合体験プログラム 14:55～15:20

—ふるさとを学び自然の中で鍛える「安心院子ども教室」—

上鶴 養正 (大分県安心院町) 「安心院子ども教室」実行委員会 会長

発足は2000年。主催は実行委員会。教室は焼き物、竹細工、草木染め、米・花づくり、安心院探険、山賊キャンプ、通学合宿、クッキング、ガイドサービスの9つ。活動場所は安心院の自然、公民館、休校中の分校など。地域の期待が高まり、協力者も増加中。町内4小学校からの募集は、当然子どもも大人も人々の交流を促進する。地域を愛し、自然に親しみ、たくましい子どもを育てたい。

4 学校を拠点とした児童期生涯学習支援総合プログラムの理論と実践 15:20～15:45

—穂波町「いきいきサタデースクール」の学校週5日制対応策—

緒方眞由美 (福岡県穂波町) 穂波町教育委員会 地域活動指導員

学校の協力を得て、活動の主要舞台は学校。子どものために設計され、子どものために整えられた学校環境こそが子どもにとって一番安全。プログラムは子どもと保護者の希望に沿って創造。有料制を導入。「100円で基礎学力の向上と自学自習・基本的生活習慣を！」がスローガン。10人集まれば講座開設。朗誦、計算ドリル、パソコン、英会話、焼き物まで。指導者は地域の人材、留学生など。

5 総括討論 15:45～16:15

■司 会／原 元宏 島根県掛合町教育委員会 地域教育コーディネーター
田原 智子 広島市立口田東小学校 教諭

1 モデル高校が取り組む生涯学習プログラムの創造 13:30～13:55

－大分南高校の地域教育力向上連携推進事業－

工藤典比古（大分市） 大分県立大分南高等学校 前PTA会長

大分南高校は地域教育力向上連携推進事業のモデル校。幼稚園から高校まで地域の教育機関PTAを縦断的に組織化して、家庭教育支援、地域交流、世代間交流を目的に、料理講習、理科実験教室、子育て講座、公開授業等を展開した。単位PTAや地域自治会との連携が促進できたが、定着のためには今後の継続が課題である。

2 農業体験活動は地域と学校の何を変えたのか？ 13:55～14:20

－教科横断型指導を実現する白木小学社融合推進事業－

園田 豊美（福岡県立花町） 立花町立白木小学校 教諭

田中千賀子 夢あいグループ代表

学社融合の理念に基づき、学校活動に農業体験活動を導入し、子どもに本物体験を提供する。活動の実践を通して、PTA、JA、食の提供を行う「夢あいグループ」、老人会など多様な組織からの学校支援を実現した。中核の行事は「白木の秋の収穫祭」。学校支援の「縁」が地域コミュニティの活力を生み出すような学校づくりが成果であり、目標である。

ティータイム 14:20～14:55

3 小学校の「おやじ会」が創る「のびのびチビリンピック」 14:55～15:20

－地域の教育力を支える父親の子育て支援事業－

川尻 修治（長崎県田平町） 田平町立南小学校 南小おやじ会 部長

小学校保護者が企画・運営する「チビリンピック」。学校周辺を活用したウォークラリー大会の愛称。保護者の交流、児童の遊び型運動の創造が目標。問題を解きながらチェックポイントを通過、チームワークあり、競争あり、おやじ会が腕によりをかけたご馳走もある。保護者の参加意識も高まっているので地域参加型の行事に育てることが今後の課題である。

4 クリーン作戦から“つくつくフェスティバル2003”まで 15:20～15:45

－学校、家庭、地域をむすぶPTA活動－

中津留正士（大分県津久見市） 津久見市立津久見小学校 PTA会長

地域教育力の向上とPTA活動の活性化を目指して複数の事業を組み合わせ実施した。校区クリーン作戦、“つくつくフェスティバル”、くすの木サークルなどを通して異なった学校のPTAや地域集団との連携／交流ができてつある。

5 総括討論 15:45～16:15



第3会場●2F 第4研修室

■司 会／石川 順雄 広島県教育会生涯学習課 社会教育主事
野口美恵子 自治労佐賀県本部

1 「谷山エコミュージアム」構想につなげる「エコマップ」作成ワークショップ 13:30～13:55

深見 聡（鹿児島市） NPOまちづくり地域フォーラム・鹿児島探険の会 理事長

谷山地区は旧谷山市の中心市街地である。道が狭く車社会には不便と受取られがちだが、視点を変えれば安全に散策が楽しめる地域である。「まちなみ散策ウォークラリー」の発展としてワークショップを開催。谷山商工会、鹿児島大学の協力を得て、絵地図「たにやまエコマップ」を作成し、主要観光施設に配付した。谷山の歴史や自然に地域の魅力を再発見した過程は生涯学習とまちづくりの発想に繋げている。

2 多様に、多彩にまちづくり “七人の侍” の実践 13:55～14:20

ーいま、鎮守の森をてくてく探訪：芋煮会、郷土唄のCD化、おはなしクレヨンの読み聞かせーそして、これから
松浦 友子（山口市） ふるさと大内塾 代表

「ふるさと大内塾」の目的は「楽しくまちづくり」。フィールドは大内を中心に山口市全域。活動は歴史探訪「てくてく大内往還」、芋煮会、郷土の歌の収集・保存などに発展。オープン参加方式で参加者もふえた。大内小学校の「地域の先生」に応募し、「おはなしクレヨン」グループを結成して読み聞かせを開始。5年目の今、読み聞かせプログラムは大内小学校全児童の自主読書会に発展した。

ティータイム

14:20～14:55

3 町村合併によるまちづくりと生涯学習 14:55～15:20

ー新市まちづくり構想における公民館教育力の創造ー

吉山 治（島根県雲南六町村） 前島根県雲南六町村合併協議会事務局 事務局次長

島根県商工労働部産業振興課 地域産業創造グループリーダー

出雲の南6町村が合併することになり、新市まちづくり構想の中で公民館の教育／自治機能に注目が集まった。そこで合併協議会は「教育創造プロジェクト」の研究と平行して6町村等公民館連絡協議会を設立。まちづくりの視点として「地域経営」、「福祉と生涯学習の統合」「住民自治における公民館の区域機能の再評価」を提案し、議論の「場」を設定した。

4 1市5町3村共催事業：青少年ボランティア養成講座 15:20～15:45

ー市町村行政の枠を超えた連携事業ー

奥村 秀蔵（大分県佐伯地区） 佐伯地区社会教育主事会 代表

森崎 真司 青少年ボランティア養成講座事業 担当者

佐伯地区社会教育主事会の企画による共同事業の一環として、これまで「青年大学講座」、「女性交流セミナー」等を開催してきた。本事業は2001年度に創設。管内中高校生ボランティア活動のリーダー養成を目的に夏期休暇中に開講。内容は「講習、実践、振り返り学習」を組み合わせた。効果は各地区でのボランティア活動への参加に現れている。

5 総括討論 15:45～16:15

■司 会／河野 明宏 大分県教育庁生涯学習課 主任社会教育主事
大坪 淑子 福岡県教育庁南筑後教育事務所生涯学習室 社会教育主事

1 「チャイルドラインしまね」の創設 13:30～13:55

－研修、受け入れ、協力ネットワーク創造のプロセス－

周藤八重子（島根県大田市） NPO法人 しまね子どもセンター 理事

平成15年チャイルドライン全国キャンペーンに際し、県内児童・生徒からのアクセスの多さからチャイルドライン立ち上げの必要を判断。NPOリーディング事業として資金を確保し、「受け手」研修、「受け手の支え手」研修を実施。現在25名の「受け手」が子どもの声を受け止め始めている。受け手の増員、フリーダイアル化、運営スタッフの確保など課題もあるが、事業を支える団体や個人とのネットワークを形成したところである。

PM

2 ひろしまチャイルドライン子どもステーション 13:55～14:20

－「子どもの声」が大人をつなぐ「心の居場所」づくり－

上野 和子（広島市） NPO法人 ひろしまチャイルドライン子どもステーション 理事長

目的は、子どもの気持ちを受け止め、子どもの「心の居場所づくり」。養成講座を終了した「受け手」は現在約70名。チャイルドラインには、受け手を支える「支え手」がおり、「ケアする人のケア」を行っている。ボランティアの仲間づくりが大人の心の居場所作りにもなっている。子どもたちが安心して電話をかけられるよう、フリーダイアル化は不可欠。社会的認知を高め、通話料確保・人材確保することが今後の課題である。

ティータイム 14:20～14:55

3 NECO（沖縄自然教育カフェ）のわくわく自然教室 14:55～15:20

－大学生が企画する子どもの生活体験支援プログラムの原理と方法－

丸谷 由（沖縄県中城村） NECO〔沖縄自然教育カフェ〕 代表者

琉球大学の学生グループが企画・指導する野外教育の実践。2000年11月に創設。舞台は沖縄中南部の自然、参加は会員制を取り、年間約30回の自然教室を実施。中身は幼児からその母親を含めた異年齢集団における様々な生活体験プログラムである。学生が主体であるため最大の課題は「継続性」である。

4 自分の責任で自由に遊ぶ 15:20～15:45

－まちの中に「冒険遊び場」を創造するには－

柴田 知行（佐賀市） NPO法人 SAGA (Saga Adventure Ground Association)

「冒険遊び場」をテーマにしたワークショップが出发点。活動の中心はNPO;SAGA (Saga Adventure Ground Association)、メンバーは子どもの健全育成に関わる保護者、市職員などで構成。遊び場の主眼は「大人の指導」ではなく、「子ども自身の創造力を育む環境」の整備である。イベントごとに200人以上の参加者を得て、「冒険遊び場」が地域の子育ての結節点となっている。

5 総括討論 15:45～16:15